

ミネベアミツミとの経営統合の意義



Win-Winの関係で 共に世界の頂を目指す

エイブリック (株)
代表取締役社長 兼 CEO
石合 信正

- 経営統合から約1年経過しましたが、経営統合先としてミネベアミツミを選ばれた経緯についてご説明いただけますでしょうか。

近年、アナログ半導体ビジネスは全世界で需給が逼迫し、各国政府も国策として半導体産業強化に力を入れています。IoT、車載、AI、すべてのものがアナログ半導体を必要とし需要過多の状況が続くなかで、統合前のエイブリックでは、設備・エンジニア・拠点といったリソース不足やBCPIにおけるリスクが原因で、事業規模拡大が困難になりつつありました。持続的な成長のためにも補完性の高い相手とのパートナーシップが必要となり、「世界の市場に活路を見出していく」「アナログ半導体の匠の技術を残していきたい」という我々の思いを実現するパートナー候補として名前が挙がったのが、ミネベアミツミでした。

日系の製造業であるエイブリックにとって望ましい資本や信用力があるのはさることながら、M&Aの選考段階で貝沼社長と初めて対面した際、我々が最も

重要視していた3点、法人格・ブランド・経営方針は変わらず維持してほしいという意向へのコミットメントが得られたことが決め手の一つとなりました。同じ目線できちりと会話ができ、その後と同じ高みを一緒に見ることができかどうかを私は重視していたので、エイブリックの一番の懸念に対して、入口の部分で貝沼社長に即答いただけたのは大きかったです。

また、話を重ねると「そうは言ってもね……」という違和感を覚える場面に遭遇しますが、そういったことも全くありませんでした。それは「高い目標を設定する」という両社に流れているカルチャーが見事に一致していたからで、貝沼社長は世界最強の相合精密部品メーカーを、我々はアナログ半導体専門メーカーとして世界のロールモデルを目指すという高い目標がリンクしていたからだと思います。

- 統合準備段階での印象はどうでしたか。

ミネベアミツミのM&A部門はプロの集団だというだけでなくスピーディで情熱的、ホスピタリティがあると強く感じました。統合に向け多数の分科会を立ち上げ、エイブリック従業員に対して誠実にそして親切に接してくれたおかげで、有意義なコミュニケーション

持続的な成長を目指す上で、
最高のパートナー

ンを取ることができました。

お互いの良いところを吸収し合って、一糸乱れずに糸を紡いでいくように準備を進められましたし、この1年間も自然体での統合ができているのではないかと思います。

- この1年間は思い描いた通りの展開となっているということですね。経営統合後の所感についてもう少しお聞かせください。

統合後はエイブリック自身の成長を考えるのに加えて、ミネベアミツミのグループ企業としてどのように貢献できるか、ということ複眼的に考えるマインドに変わりました。また、エイブリックでは、「パフォーマンス」「チェンジ・エージェント」「インフルエンサー」を標榜していますが、ミネベアミツミの価値観も同じであることに気がきました。優秀な成果を上げていけば、新参の事業部であっても評価してもらえ、大変フェアなので認識の相違もありませんでした。ミネベアミツミは、一つのグループ企業軍団として強固なプレゼンスを築いていますが、そのなかで個々のグループ企業を尊重し、それぞれの企業が作り出すブランドが光り輝くことのできるマネジメントをしていると思います。

また、グローバルな社会課題を製品やサービスを通じて解決することが強く求められていく中、個の器からミネベアミツミという大きな器に入れたことで、社会課題解決への貢献度を高められたと実感しています。例えば、環境負荷低減に貢献するエイブリックのCLEAN-Boost® (クリーンブースト) 技術が、世界に広がるミネベアミツミの営業ネットワークにより、スマートシティやIoTといったさまざまな分野で展開が期待できるようになったのは、とてもうれしかったです。

- エイブリックの強みは何でしょうか。

一番の強みはやはりエイブリックを構成している従業員の個々人の力もさることながら、ブランドを核とした強い団結力だと思います。我々は、いかに早く相手のよいところを学んで自分たちがどんどん進化していくかというチェンジ・エージェントを誇りにしています。より良いものを貪欲に探究し謙虚に取り入れることにプライドを持っており、それがエイブリックの強みでもあります。

要素的な部分ですとエイブリックの半導体製品は、

アナログ半導体産業を、 日本を代表する 産業にしていきたい

多くがクォーツ式腕時計の開発過程から生まれ、そこから派生して展開してきたものです。腕時計という狭いスペースに実装することが求められること、そして、電池駆動のため限られた電力で長時間動作することが求められるなど、当社のビジョンでもある「Small Smart Simple」な製品開発が根底に根付いており、それを貫いています。さらに半導体企業では珍しい、開発・製造・販売が一体になっているという強みもあります。

- 今後の展望についてはいかがでしょうか。

経営統合によって八本槍戦略の一角であるアナログ半導体事業をミツミとともに担うことで、戦略的に非常によい補完ができています。また、今回の経営統合には日本のアナログ半導体産業を強くするための業界再編の側面もあります。アナログ半導体は、匠の技術やチームワークが必要とされるものですから、日本人の強みが発揮できる分野になります。以前は競合であったミツミと一緒にすることで、海外の超大手競合に差をつけられる危機感から一転、海外勢が苦手とする丁寧な匠の技術、多品種少量生産で世界を狙える絶好のチャンスが訪れたと思っています。

チャンスをものにするためにも開発・製造・販売のすべてにおいて相合強化をはかり、注力していくことで、エイブリックとしてさらなるグローバル競争力の強化と収益力を拡大しグループに貢献したいと考えています。そのためにも変化を先取りした新製品を次々と世に送り出し、しっかりと結果を出していく所存です。

- 最後に読者の皆様に向けたメッセージをお願いします。

アナログ半導体専門メーカーとして、ぶれずに世界のロールモデルを目指していきますので、今後ともミネベアミツミグループのエイブリックをよろしく願いたします。

Do ABLIC!

- ありがとうございます。